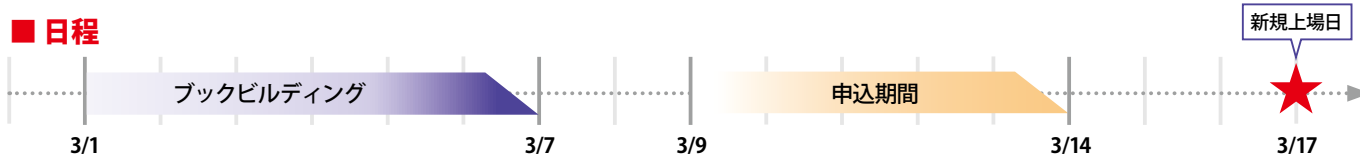


IPO銘柄 ジャパンエレベーターサービスホールディングス (6544・マザーズ)

| コード | 投資単位 | 公開株式数 | 仮条件 (上限 PER) | 主幹事証券 |
|------|------|--|-----------------------|-------|
| 6544 | 100株 | 公募: 164.00万株 売出: 126.00万株 (OA43.50万株) | 530円~ 550円 (17.3倍) | 野村証券 |



独立系のエレベーターメンテナンス会社

■ 事業内容

エレベーター、エスカレーターの保守、保全業務やリニューアル業務を行うメンテナンス事業を手掛ける。エレベーターの設置後、経年劣化が生じた場合や装置の旧式化によって時代のニーズに合わなくなった場合、制御盤や巻上機、モーターなどの主要な装置をリニューアルすることで、より長く、効率的に利用することが可能となる。同社はリニューアル後の保守体制も含め、トータルな視点から提案することでサービスの質向上に努める。リモート遠隔点検サービス「PRIME」も運用。三菱電機や日立製作所、東芝エレベータ、日本オーチス・エレベータ、フジテックといった国内主要メーカー製機種に対応する技術力とエンジニアを有している。メンテナンス事業の単一業態。

■ 特徴

かつてエレベーターのメンテナンスは、メーカーがそれぞれ自社や系列のメンテナンス会社を通じて自社製品のみでのメンテナンスを行うことが一般的で、価格やサービスによる競争原理が働きにくい状況だった。同社は独立系のメンテナンス専門企業としてメーカー主導の価格設定にとらわれず、市場競争力のある価格でサービスを提供している。

アナリストコメント

■ 定量分析

17年3月期の連結経常利益は前期比38.4%減の4億3,000万円と予想する。保守台数は着実に増加しているものの、今期は今後の事業拡大を見据えたメンテナンス要員の大幅増員を行う影響から費用負担が大きく増える見込みにある。

■ 定性分析

今期減益見込みで新興市場上場案件としては地味なイメージのある業態だが、関西などへの進出、また海外展開など成長シナリオは明確。老朽化したエレベーターのメンテナンス、リニューアル需要は旺盛で業績面への不安感は乏しい。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は約18億円。新興市場上場案件としては、やや荷もたれ感が意識される規模で、需給面に不安を抱えるピーグリーと同日上場であることから、初値買い資金分散への懸念もある。(小泉健太)

■ 類似企業

| | |
|-----------------------------------|-----------------------|
| ジャパンエレベーターサービスホールディングス(6544・マザーズ) | 予想PER17.3倍 (仮条件上限) |
| 日本空調サービス(4658・東証1部) | 予想PER16.5倍 |
| ビケンテクノ(9791・東証2部) | 予想PER7.7倍 |

■ 引受証券

野村証券、みずほ証券、SMBC日興証券、いちよし証券、岩井コスモ証券、SBI証券、東海東京証券

業績・財務指標

| | 売上高 (百万円) | 前年比 (%) | 経常利益 (百万円) | 前年比 (%) | 純利益 (百万円) | 前年比 (%) | EPS (円) | 1株あたり 年間配当金(円) |
|--------------|--------------|------------|---------------|------------|--------------|------------|------------|-------------------|
| 15年3月期(実績) | 10,499 | — | 572 | — | 316 | — | 40.7 | 0.0 |
| 16年3月期(実績) | 11,891 | 13.3 | 699 | 22.2 | 402 | 27.1 | 50.8 | 4.7 |
| 17年3月期(会社予想) | 13,343 | 12.2 | 430 | ▲38.4 | 255 | ▲36.7 | 31.9 | 0.0 |

※ 15年3月期より連結決算。16年3月(1株→100株)および16年8月(1株→100株)に株式分割を実施。15年3月期、16年3月期のEPSは遡及修正

| | 発行済み 株式総数(株) | 総資産 (百万円) | 純資産 (百万円) | 資本金 (百万円) | BPS (円) | 自己資本比率 (%) | 自己資本当期 純利益率(%) |
|--------|-----------------|--------------|--------------|--------------|------------|---------------|-------------------|
| 15年3月期 | 820 | 5,530 | 886 | 41 | 46.9 | 16.0 | 43.0 |
| 16年3月期 | 79,500 | 6,552 | 793 | 86 | 99.9 | 12.1 | 48.0 |

※ 15年3月期、および16年3月期のBPSは遡及修正

大株主上位 (上場前)

| | 氏名または名称 | 所有株式数(株) | 所有割合(%) |
|---|----------------------|-----------|---------|
| 1 | 石田 克史 | 4,109,000 | 49.88 |
| 2 | K I | 3,320,000 | 40.31 |
| 3 | ジャパンエレベーターサービス従業員持株会 | 281,000 | 3.41 |
| 4 | LEOC | 150,000 | 1.82 |
| 5 | Lui Kin Shing | 119,000 | 1.44 |
| 6 | クララ | 60,000 | 0.73 |
| 7 | 國安 生悟 | 40,000 | 0.49 |
| 8 | 安藤 広司 | 32,000 | 0.39 |
| 9 | 瀬戸 秀明 | 28,000 | 0.34 |

経営陣

| | 役職 | 氏名 |
|--|--------------------|-------|
| | 代表取締役会長兼社長 | 石田 克史 |
| | 取締役 管理本部長兼経営企画部長 | 國安 生悟 |
| | 取締役 | 安藤 広司 |
| | 取締役 | 瀬戸 秀明 |
| | 取締役 経理財務本部長兼経理財務部長 | 寺尾 洋之 |
| | 取締役 | 倉本 周治 |
| | 取締役 | 村上 大生 |
| | 取締役 | 利 銘鋒 |
| | 取締役 | 渡邊 仁 |
| | 取締役 | 米澤 禮子 |
| | 常勤監査役 | 池田 尚 |
| | 監査役 | 江口 勤 |
| | 監査役 | 前田 仁 |

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。